

分野別ビジョン⑤
「森林整備を進め、森林資源の有効活用を図ります」

この分野では、森林の生産基盤の整備に努めるとともに、地球温暖化防止のための森林整備を進め、自然との共生と森林利用による経済性を確保していきます。具体的な取り組みとしては、「森林の保全対策」「森林の多目的利用」の観点で各施策を進めています。

環境指標の評価では、「木質資源利用ボイラー設置数」で、このままでは目標に達しないので、取り組み

の強化が必要となりました。これは、設備導入にあたって従来の化石燃料ボイラーと比較し、イニシャルコスト面や適切な運用計画、燃料チップなどの安定供給体制など需給バランスなどが課題になっていきます。今後も設置数を増加させるため、導入検討を進めていきます。

【環境指標の評価】

環境指標	計画策定時 (平成29年度)	実績 (平成30年度)	計画目標値 (令和9年度)	評価
民有保安林面積	22,166%	23,584%	現状維持	◎
森林と人との共生林面積	847%	847%	現状維持	◎
木質資源利用ボイラー設置数	2 施設	2 施設	10 施設	△
森林インストラクター数	7 人	14 人	10 人	◎
もりの案内人認定者数	20 人	20 人	30 人	◎
森林インストラクター等との情報交換会の開催数	0 回 / 年	0 回 / 年	2回 / 年	-

分野別ビジョン⑥
「放射線対策を推進し、健康で安心な生活環境をつくります」

この分野では、安全・安心なまちづくりを目的として放射線対策の推進と、化学物質や公害などの健康影響に対する、正しい知識の普及や情報提供に努めていきます。具体的な取り組みとしては、「放射線対策」「公害対策」「化学物質対策」の観点で各施策を進めています。

環境指標の評価では、「町役場公用車における低公害車導入台数」がこのままで

は目標に達しないので、取り組みの強化が必要となりました。これは、導入コストの財政面や電気自動車の充電設備などが課題ですが、今後新規車両購入の際に低公害車の導入検討を進めていきます。

【環境指標の評価】

環境指標	計画策定時 (平成29年度)	実績 (平成30年度)	計画目標値 (令和9年度)	評価
空間線量の定期モニタリング(町内110箇所)	1 回 / 月	1 回 / 月	現状維持	◎
町役場公用車における低公害車導入台数	10 台	10 台	15 台	△
公共交通機関における低公害車導入台数	0 台	0 台	5 台	-
公害苦情の件数	3 件	1 件	減少させる	◎
ダイオキシン類環境基準(大気、河川水質、地下水、土壌)	100%	100%	環境基準を満たす	◎

分野別ビジョン③
「自然資源を保護し、後世に継承します」

この分野では、国指定天然記念物の駒止湿原や尾瀬国立公園の田代山湿原などの自然資源を保護し、後世に継承していきます。具体的な取り組みとしては、「野生生物の保全と保護」「外来生物・鳥獣対策」「調査・研究」「景観形成」の観点で各施策を進めています。

環境指標の評価では、「田代山湿原の面積維持」がこ

のままでは目標に達しないので、取り組みの強化が必要となりました。これは、昨年の台風19号により田代山の山腹崩落規模が拡大し、田代山湿原に迫っている状況が見られました。国や県に対しては、被害状況など早急な対応を要望していますが、今後も抜本的な対策を講じるよう強く働きかけをする必要があります。

【環境指標の評価】

環境指標	計画策定時 (平成29年度)	実績 (平成30年度)	計画目標値 (令和9年度)	評価
駒止湿原	約 148%	約 148%	現状維持	◎
田代山湿原	約 23%	約 23%	湿原面積を維持	△
宮床湿原	約 54%	約 54%	現状維持	◎
黒岩湿原	約 4%	約 4%	現状維持	◎
駒止湿原案内人の会	29 人	26 人	20 ~ 30 人を維持	◎
尾瀬ガイド協会	12 人	12 人	20 人	△

分野別ビジョン④
「流域としての河川を守ります」

この分野では、河川などの監視・調査を継続的に実施するとともに、公共下水道や合併処理浄化槽設置など排水処理に努め、環境への負荷の低減を図っていきます。具体的な取り組みとしては、「水辺の環境整備」「下水道などの整備」「湧水の保全対策」「調査・研究」の観点で各施策を進めています。

環境指標の評価では、「汚

水処理人口・普及率」がこのままでは目標に達しないので、取り組みの強化が必要となりました。これは、主に個人で設置する合併処理浄化槽の整備率が大きく影響するため、今後普及促進に向けた啓発活動を実施していきます。

【環境指標の評価】

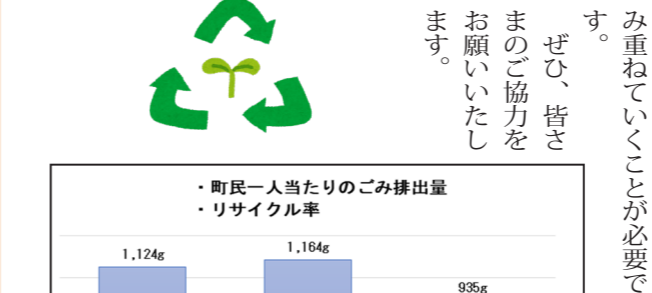
環境指標	計画策定時 (平成29年度)	実績 (平成30年度)	計画目標値 (令和9年度)	評価
汚水処理人口	12,375 人	12,126 人	12,500 人	△
汚水処理人口普及率	77.8%	78.2%	88.5%	△
主要な河川の水質基準達成項目数	阿賀川(田島地域) 黒岩川(黒岩地域) 伊南川(伊南地域) 伊南川(南郷地域)	生活環境の保全に関する環境基準で定められている7項目について、基準を満たしている。	継続した検査の実施と環境基準を満たす。	◎
主要な湧水の水質基準達成項目数	嶽清水(田島地域) 水守の清水(黒岩地域) 舞台の清水(伊南地域) 高清水(南郷地域)	水道法に基づく水質基準(飲用)で定められている13項目について、基準を満たしている。	継続した検査の実施と水質基準を満たす。	◎

分野別ビジョン①
「資源の有効活用を努め、持続可能な循環型社会の構築を目指します」

この分野では、限りある資源を有効活用するため、ごみの適正処理によるごみの減量化やリサイクル率の向上を図るとともに、不法投棄への対策を強化していきます。具体的な取り組みとしては、「ごみの発生抑制」「再使用・リサイクル」「不法投棄対策」の観点で各施策を進めています。

環境指標の評価では、「町民一人1日当たりのごみ排出量」「リサイクル率」ともに、このままでは目標に達しないので、取り組みの強化が必要です。

平成30年度の町全体のごみ排出量は左表のとおりで



【環境指標の評価】

環境指標	計画策定時 (平成29年度)	実績 (平成30年度)	計画目標値 (令和9年度)	評価
町民一人1日当たりのごみ排出量	1,124 g	1,164 g	935 g	△
リサイクル率	12.1%	13.5%	21.0%	△

分野別ビジョン②
「地域特性を生かして、地球温暖化対策を推進します」

この分野では、木質バイオマスなどの地域特性を生かした再生可能エネルギーの導入と温室効果ガス排出量の削減を目指し、地球温暖化対策を進めていきます。具体的な取り組みとしては、「再生可能エネルギーの活用促進」「気候変動への適応策」の観点で各施策を進めています。

環境指標の評価では、「再生可能エネルギー利用設備数(累計)」と「住宅用太陽光発電システム補助件数(累計)」と

再生可能エネルギー利用設備数(累計)は、平成22年度をピークに減少傾向にあります。これは、太陽光発電設備

この分野では、木質バイオマスなどの地域特性を生かした再生可能エネルギーの導入と温室効果ガス排出量の削減を目指し、地球温暖化対策を進めていきます。具体的な取り組みとしては、「再生可能エネルギーの活用促進」「気候変動への適応策」の観点で各施策を進めています。

環境指標の評価では、「再生可能エネルギー利用設備数(累計)」と「住宅用太陽光発電システム補助件数(累計)」と

【環境指標の評価】

環境指標	計画策定時 (平成29年度)	実績 (平成30年度)	計画目標値 (令和9年度)	評価
役場における温室効果ガス排出量	実行計画未策定	13.2%削減	26%削減	◎
再生可能エネルギー利用設備数(累計)	24 箇所	24 箇所	35 箇所	△
住宅用太陽光発電システム補助件数(累計)	92 件	93 件	150 件	△

また、住宅用太陽光発電システム補助件数は、平成22年度をピークに減少傾向にあります。これは、太陽光発電設備

この分野では、木質バイオマスなどの地域特性を生かした再生可能エネルギーの導入と温室効果ガス排出量の削減を目指し、地球温暖化対策を進めていきます。具体的な取り組みとしては、「再生可能エネルギーの活用促進」「気候変動への適応策」の観点で各施策を進めています。

環境指標の評価では、「再生可能エネルギー利用設備数(累計)」と「住宅用太陽光発電システム補助件数(累計)」と



【問合せ】
環境水道課 環境衛生係
電話0241-62-6140

この分野では、木質バイオマスなどの地域特性を生かした再生可能エネルギーの導入と温室効果ガス排出量の削減を目指し、地球温暖化対策を進めていきます。具体的な取り組みとしては、「再生可能エネルギーの活用促進」「気候変動への適応策」の観点で各施策を進めています。

環境指標の評価では、「再生可能エネルギー利用設備数(累計)」と「住宅用太陽光発電システム補助件数(累計)」と

また、住宅用太陽光発電システム補助件数は、平成22年度をピークに減少傾向にあります。これは、太陽光発電設備

この分野では、木質バイオマスなどの地域特性を生かした再生可能エネルギーの導入と温室効果ガス排出量の削減を目指し、地球温暖化対策を進めていきます。具体的な取り組みとしては、「再生可能エネルギーの活用促進」「気候変動への適応策」の観点で各施策を進めています。

環境指標の評価では、「再生可能エネルギー利用設備数(累計)」と「住宅用太陽光発電システム補助件数(累計)」と

【評価の見方】

評価	◎	△	×	-
評価基準	このまま推移すると目標に到達する	このままでは目標に達しないので、取り組みの強化が必要	基本方針の再検討や新たな取り組みが必要	評価が困難